

▶デザインアプローチによる政策立案の試行

【長浜市総合計画第3期基本計画】

・政策デザインの推進

「本市でも、新しい試みや複雑な課題に取り組む際に、これらのデザインプロセス※を積極的に活用していきます。」

※住民の目線に立って社会の課題を捉えることで、市民中心の政策を実現する「人間中心」と限られた関係者だけで政策を考えるのではなく、行政や住民、各種団体など、幅広い関係者とともに課題の解決方法を検討する「共創」を「実験」しました。

【令和6年度に向けた施策構築方針】

・Challenge&Creationを実現する施策立案、情報発信

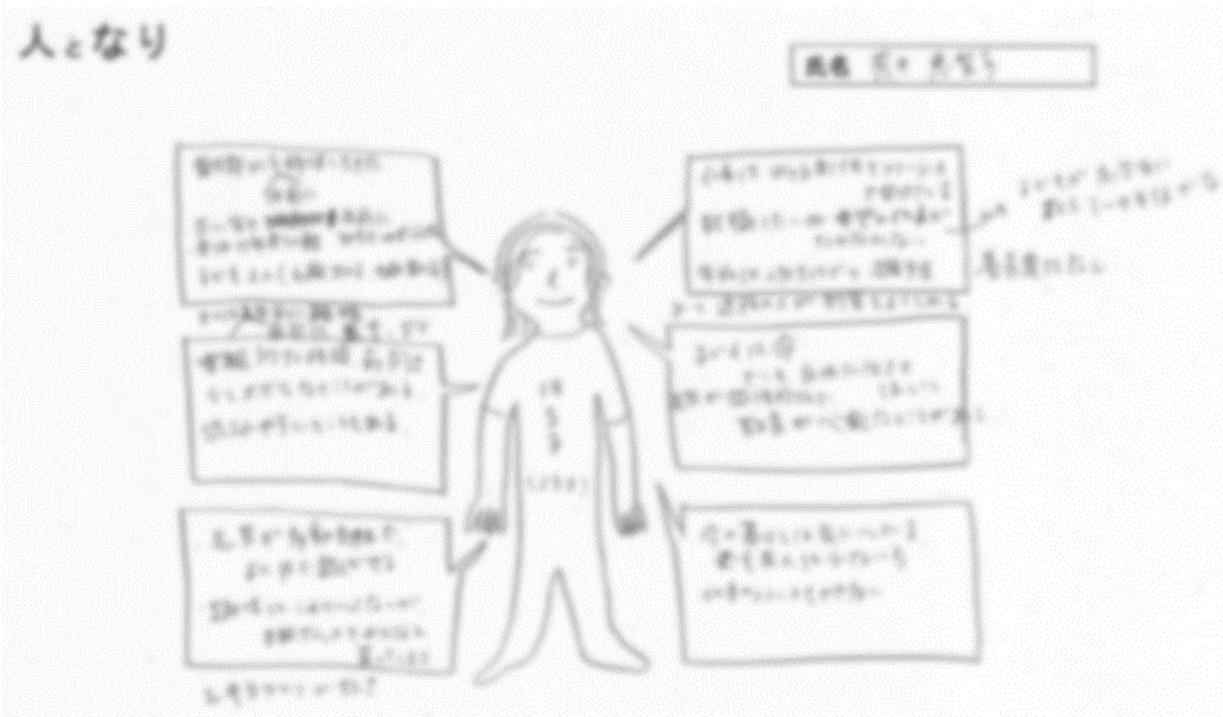
「総合計画の実現に向け、部局を超えて知識や発想を持ち寄り、特に若手職員の声を取り入れ、『挑戦と創造』に満ちた施策立案を進めること。」

ブラッシュアップ部会について

▶ 第三回未来子ども若者会議での取組み

▷ 代表的な関係者の作成

- ・委員の専門的な知識や経験を言語化・可視化することで、共有・共感するために、関わりの深い代表的な人物像（ペルソナ）を作成



明日も一歩 ど根性はるこ (28歳女性)



ギャップと戦う未来のユーチューバー (8歳男児)

ブラッシュアップ部会について

▶ブラッシュアップ部会の実施

潜在的な悩みを明らかにして（課題の設定）
解決策を立案する

▷12/20

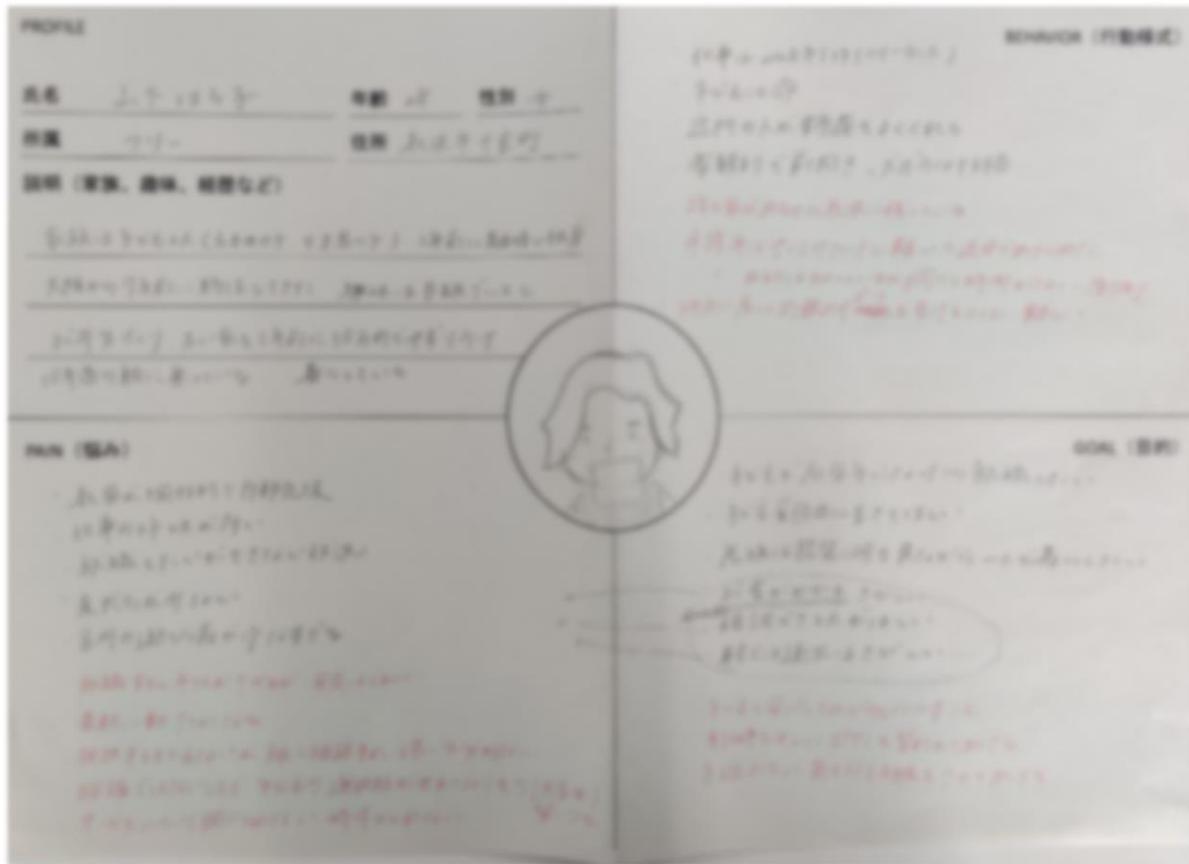
- ・審議会で作成したペルソナを要素分解
- ・不足している情報や疑問を基に質問作成
- ・委員に聞き取り

▷12/25

- ・聞き取り結果をペルソナに追記
- ・潜在的なニーズ、悩みの検討
- ・課題の設定
- ・どうしたら解決できるか？の視点から解決策の検討



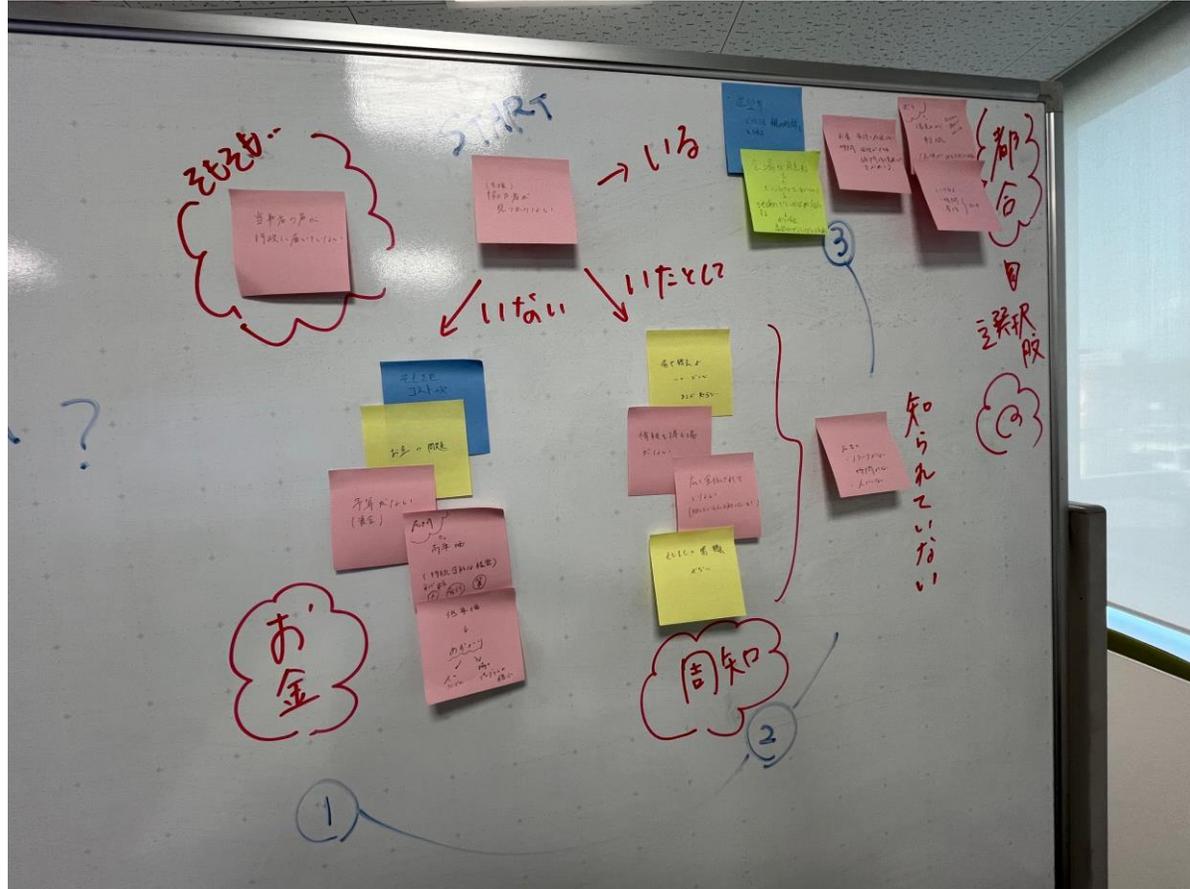
ブラッシュアップ部会について



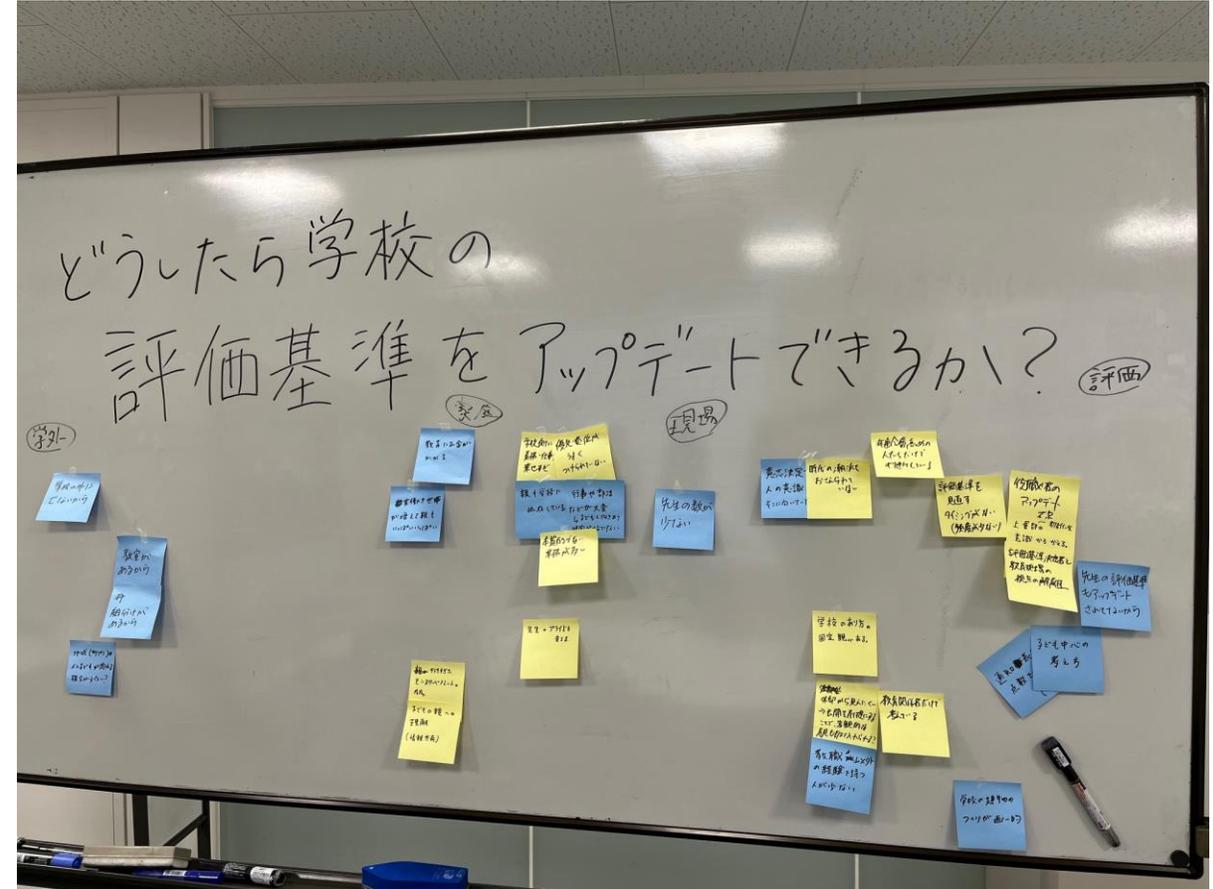
- ・在宅で就労できるスキルアップの支援が必要では？
 - ・自分のゆとりある時間が必要では？
 - ・経済的理由に左右されないこどもの体験の機会が必要では？
- どうしたら関わりやすいこどもの体験の場ができるか？

- ・ストレスをためてしまう子のフォローができていないのでは？
 - ・多様性を受け入れることが必要では？
 - ・評価基準のアップデートが必要では？
- どうしたら学校の評価基準をアップデートできるか？

ブラッシュアップ部会について



企業や地域との連携や商品づくりなどにより、経済的に持続可能な仕組みを作る



学校の負担を減らすために、地域や外部人材が担えることを増やしていく

ブラッシュアップ部会について

問い

どうしたら関わりやすいこどもの体験の場ができるか？



解決策

企業や地域との連携や商品づくりなどにより、
経済的に持続可能な仕組みを作る



手法

- ・単価や人数といったターゲットやコンセプトを決めておく
- ・補助金や企業によるスポンサー、個人からの寄付といった収入源をバランスよく確保する
- ・教材の制作など内製化とキャッシュポイントを増やす
- ・こども自身がインターンとして働く
- ・こどもによる商品開発を行う
- ・場や人をシェアリングする
- ・場の提供を広く募集する

問い

どうしたら学校の評価基準をアップデートできるか？



解決策

学校の負担を減らすために、
地域や外部人材が担えることを増やしていく



手法

- ・学び、教育、勉強の分解
- ・運動会や文化祭といったイベントを地域で実施する
- ・校内にフリースクールのような機能を持つスペースの設置
- ・部活動の地域移行
- ・音楽や技術といった副教科の地域移行
- ・評価の外部委託
- ・事務委託、外部人材による事務効率化
- ・遠足や自然体験の地域移行

ブラッシュアップ部会について

▶ブラッシュアップ部会の評価

▷良かったこと

- ・それぞれの人物像が具体的に becoming することで共感することができた
- ・自分事として、どうしたら実現できるか？の視点で新しい発想がでてきた
- ・利他的な経験ができた

こども若者の声を聞いて若手職員が主体となって施策に反映する手法として一定の有効性があると思われる。

▷気を付けること

- ・インタビューやペルソナといった手法が自己目的化しないようにする

▷今後の展開

- ・より効果的で簡略的な手法の模索
- ・計画や令和7年度予算への反映